

CIR Insights Vol. 15

[東北大学生・教職員のための教育データレポート]

2022年秋号 卒業・修了生からみた東北大学での学び

東北大学を卒業・修了した人は、本学での学びをどのように捉えているのでしょうか？2021年度に行なった調査の結果では、「東北大学で学んでよかったか？」という質問に、肯定的に回答した人の割合は90%を越えており、「東北大学で学んだことが仕事や生活に生きているか？」という質問にも約80%から肯定的な回答を得ています。このことから、本学は卒業・修了者の大部分に有意義な教育を提供できていると考えられます。一方で、一部の人から、改善すべき点について貴重な指摘が届いていることも事実です。こうした意見を実際の改善につなげる組織的な仕組みの整備が求められます。

CIRとは？

教育評価分析センターのこと。東北大学における教育・学習活動の体系的なデータ収集・分析を行い、本学の教育マネジメントを支援する組織です。

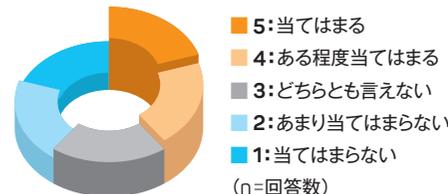
東北大学
高度教養教育・学生支援機構
教育評価分析センター

〒980-8576 仙台市青葉区川内41
Tel: 022-795-4931
Fax: 022-795-4749
E-mail: cir@ihe.tohoku.ac.jp
http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp

第4回 東北大学の教育に関する卒業・修了者調査

以下のグラフは、第4回東北大学の教育に関する卒業・修了者調査(2012・2016・2020年に卒業・修了した人が対象)の回答のうち2つの設問に対する5段階評価の結果を示したものです。

凡例

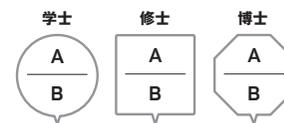


自由記述からの抜粋

(表現は一部変更しています)

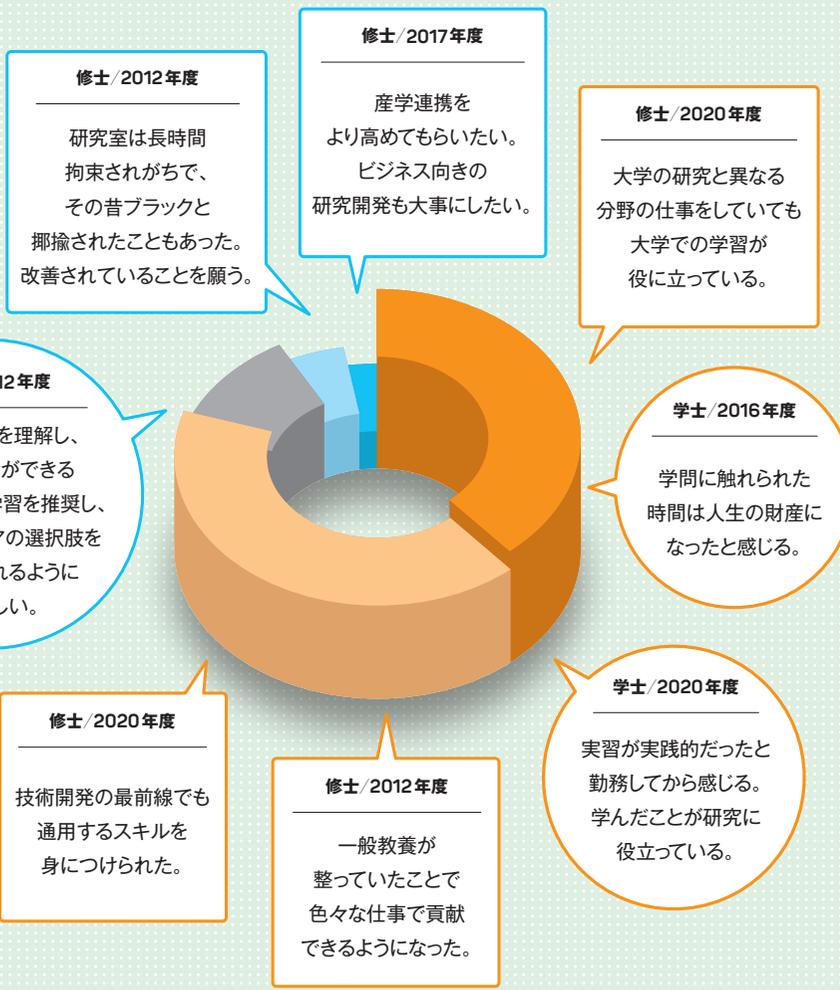
A: 卒業・修了課程 / 卒業・修了年度

B: 自由記述内容



Q1

東北大学で学んだことが仕事や生活に活かされているか？



修士 / 2012年度
研究室は長時間拘束されがちで、その昔ブラックと揶揄されたこともあった。改善されていることを願う。

修士 / 2017年度
産学連携をより高めてもらいたい。ビジネス向きの研究開発も大事にしたい。

修士 / 2020年度
大学の研究と異なる分野の仕事をしていても大学での学習が役に立っている。

学士 / 2016年度
学問に触れられた時間は人生の財産になったと感じる。

学士 / 2012年度
英語で物事を理解し、他者と議論ができるレベルまでの学習を推奨し、学生がキャリアの選択肢をより広げられるようにしてほしい。

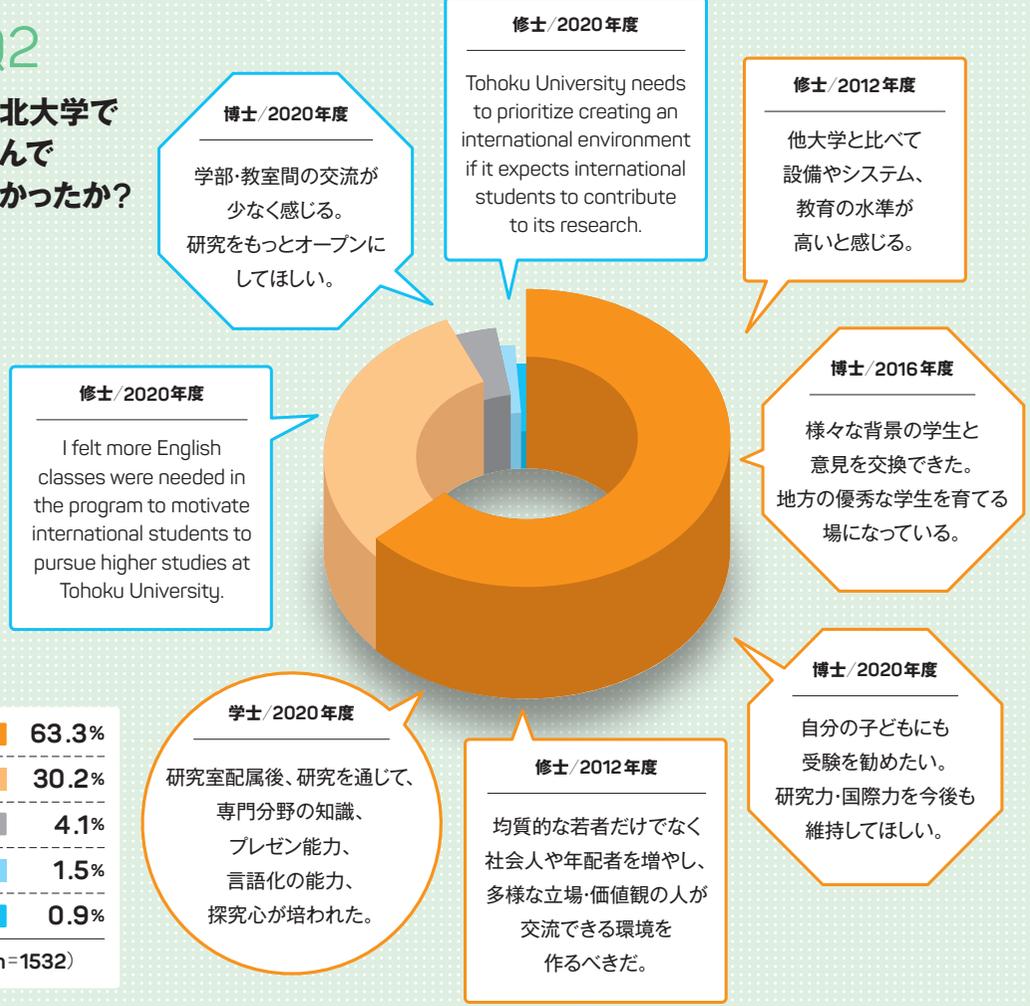
修士 / 2020年度
技術開発の最前線でも通用するスキルを身につけられた。

修士 / 2012年度
一般教養が整っていたことで色々な仕事で貢献できるようになった。

学士 / 2020年度
実習が実践的だったと勤務してから感じる。学んだことが研究に役立っている。

Q2

東北大学で学んでよかったか？



博士 / 2020年度
学部・教室間の交流が少なく感じる。研究をもっとオープンにしてほしい。

修士 / 2020年度
Tohoku University needs to prioritize creating an international environment if it expects international students to contribute to its research.

修士 / 2012年度
他大学と比べて設備やシステム、教育の水準が高いと感じる。

博士 / 2016年度
様々な背景の学生と意見を交換できた。地方の優秀な学生を育てる場になっている。

修士 / 2020年度
I felt more English classes were needed in the program to motivate international students to pursue higher studies at Tohoku University.

学士 / 2020年度
研究室配属後、研究を通じて、専門分野の知識、プレゼン能力、言語化の能力、探究心が育まれた。

修士 / 2012年度
均質的な若者だけでなく社会人や年配者を増やし、多様な立場・価値観の人が交流できる環境を作るべきだ。

博士 / 2020年度
自分の子どもにも受験を勧めたい。研究力・国際力を今後も維持してほしい。



CIRと コラボレーション しませんか？

CIRでは全学的な教育に関する調査分析の他に、学内各所の委員会や部局との連携・協力による改善支援を行っています。

これまでCIRが蓄積してきた様々な教育関連データを用い、教育改善に向けた課題抽出、解決のための情報分析をお手伝いします。

ご興味をお持ちの部局、解決したい課題をお持ちの方がおられればお気軽にお問い合わせください。

例えば、こんなことができます【これまでの実績】

➔ 東北大学学務審議会 / 教育情報・評価改善委員会

CIRは、東北大学学務審議会及び教育情報・評価改善委員会からの依頼に基づき、各々年に二回発行されている報告書「全学教育科目成績分布図」と「学生による授業アンケート実施報告書」の冒頭において、各期の教育活動を振り返るため、全体的な集計結果を報告しています。

➔ 物理における「力学概念テスト(FCI)」の活用可能性検証

東北大学・全学教育の「物理」(力学)の一部クラスでは、学修成果を検証すべく、米国で開発された「力学概念テスト(Force Concept Inventory: FCI)」を試験的に導入しています。受講生のFCI得点と入学時の共通テスト(物理)得点との比較調査に基づくFCIの活用可能性検証に際して、CIRからデータ提供を行いました。

CIRが実施する調査のご紹介

CIRでは、過去に実施した調査報告書を配付しております。

入手をご希望の方は下記のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。

【お問い合わせ】教育評価分析センター →→→ cir@ihe.tohoku.ac.jp



2021年
3月
実施

東北大学の 教育と学修成果に関する調査報告書

2012年度から2年に1度実施されている「東北大学の教育と学修成果に関する調査」の第5回報告書が発刊されました。

本報告書では、2020年度に本学を卒業・修了した学生たちが東北大学での経験を振り返った結果をまとめています。これまでの調査結果との経年比較も参考にしつつ、東北大学生の学修成果の現状を正確に把握し、将来を展望するための一素材としてご活用いただける内容となっています。

【目次】

- 第1部 調査結果全体に関する概要**
調査概要と経年比較の結果について
「第7回教育調査研究会」スライド資料
- 第2部 各部局の結果に対する所見**
- 第3部 資料(基礎集計表・自由記述・調査票)**

【既刊】

- 第1回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書 (2013年3月実施)
- 第2回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書 (2015年3月実施)
- 第3回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書 (2017年3月実施)
- 第4回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書 (2019年3月実施)



2020年
1月
実施

東北大学教員の 教育活動に関する調査報告書

東北大学の教育改善を図る取組の一環として、2015年度の調査に続き今回は2回目の実施となりました。2022年に向けた新たな全学教育カリキュラム改革の実装段階に入るにあたって、政策的要請やカリキュラム改革にも資するものとなるよう、本学教員がいかなる認識や方法の下で教育活動を展開し、どのような課題を抱えているかをデータで明らかにすることを試みました。特に「単位の実質化」、「高年次教養教育」、「 Semester制・クォーター制」について詳細に報告しています。

【目次】

- 第1部 調査結果全体に関する分析**
 1. 調査概要と回答傾向
 2. 単位の実質化に向けた諸課題
2019年度改定の関連文書を念頭に
 3. 全学教育改革について
学期制と高年次教養教育
- 第2部 資料(部局別集計表、自由記述、調査票)**

【既刊】

- 第1回東北大学教員の教育活動に関する調査報告書
速報版: 2016年3月刊行
通常版: 2016年11月刊行